

03

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

第3回地域夢・未来カフェ in 多田

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため、「第3回地域夢・未来カフェ in 多田」が開催されました。

日時：2013年2月15日（金）19:00～21:00

場所：多田公民館

参加人数：市民14名

当日のスケジュール

- 19:00 開会
- 19:05 当日スケジュール説明・ふりかえり
- 19:10 イントロダクション
- 19:20 テーブルワーク（活動案のとりまとめ）
- 20:35 グループ発表
- 20:55 今後の流れの説明
- 21:00 閉会

当日スケジュール説明～イントロダクション

開会のあいさつの後、前回のふりかえりと当日のスケジュールの説明がありました。その後、アイスブレイク「喪失体験」を行いました。フセンに「友人」「健康」「趣味」「お金」「役割」「仕事」という6つのキーワードを書き、ジャンケンに負けると1枚ずつ破っていくゲームです。残った付箋は人によりさまざまで、参加者の中でも価値観が異なっていることを体感しました。また、6つのキーワードは、年をとるごとに失っていくものですが、地域活動等を行うことで新しく得ることもできるという話もありました。



テーブルワーク～グループ発表

各グループのテーマ

- Aグループ：多世代が交流できるまちにする
- Bグループ：地域活動が活発なまちにする
- Cグループ：ボランティア活動の活発なまちにする

テーブルワークでは、第2回に引き続いて活発な議論が行われ、最終的な活動案がとりまとめられました。できあがった活動案については、各グループから全体に向け発表しました。

Aグループでは猪名川の活用などについて、Bグループでは地域交流のためのイベントなどについて、Cグループではボランティアを増やすための方法などについて話し合いが行われ、発表されました。

最後に総合政策部の本荘部長より講評と3回にわたった地域夢・未来カフェの閉会のあいさつがありました。



Aグループ 多世代が交流できるまちにする

○現在の活動

- ・川原で遊ぼう（毎月）
- ・猪名川を守る会（清掃活動）
- ・スポーツ21がノルディックウォーキングをしている
- ・外部の人がバーベキューをしている

○猪名川バーベキュー大会

- ・川原の整備ができると、猪名川でバーベキュー大会ができる
- ・多田小の家庭にお知らせする
- ・おもちつきの時は60人ぐらい集まる

○川原の整備

- ・先日、不審火があった
- ・川沿いの道の歩道がなく、危ない
- ・整備することで人の目も通るようになる
- ・こんにやく橋から朱橋まで遊歩道を整備する
- ・堤防の道が車ぐらい通れば
- ・朱橋は自転車が通りにくい
- ・ベンチがほしい
- ・公園にあるような遊具はいらない

○子どもの遊ぶ場がない

- ・親子で遊べる広場がない
- ・昔は猪名川でプールの授業を受けていた
- ・猪名川に子どもが勝手に遊びに行けない
- ・イベントをする場合、何かあった時の責任の追求が大きい
- ・子どもの遊ぶ場所がなくなってきている
- ・道草する田畑がない

○地域分権で必要な組織について

- ・移譲される団体はコミュニティ+自治会+?
- ・コミュニティだけだと偏りができる

○使い勝手の良いお金の使い方は？

- ・使いきりではなくて繰越できる
- ・川原が買収できて整備できるくらい予算がほしい

○地域担当職員に期待すること

- ・前向きで公平である人
- ・県に陳情できるような人



B班 地域活動が活発なまちにする

○現状

- ・子ども会のない地域がある
- ・認知症研修に中学生が手伝いに来てくれる
- ・若い人はお膳立てすればくるのではないか
- ・ベリタスが出張講演してくれている

○地域交流のイベントについて

- ・有料のイベントをしてみたらどうか
- ・子どものイベントで親も巻き込む
- ・コミュニティで魚釣り大会
- ・よさこいしている中学生を地域の祭りに呼ぶ
- ・中学生が地域といっしょに企画する
- ・多田神社で親子で学ぶ
- ・地区全体の医療講座
- ・パソコン教室
- ・交通安全の講習会（警察と連携する）

○地域の役割について

- ・役員をしていろいろな人と交流できてよかったという意見もある
- ・「自治会役員≠コミュニティ役員」ならできるのでは？

○地域分権の組織について

- ・自治会かコミュニティか、どこが主体になるのか？
- ・今ならコミュニティが一番まとまりがいい

○組織を統合・再編するべき！

- ・分野別の実行委員会が多すぎる
- ・青少年育成市民会議は中学校区なので、バラバラになるのでは？
- ・青少年育成市民会議と青少年補導委員は同じことをしている
- ・老人会もコミュニティに関わるべきである
- ・活動によって主体が変わるのではないかと
- ・地域の事業を誰が決定するのか？

○地域をやる気にさせる

- ・地域のやる気次第ではないか

○地域担当職員

- ・市職員も地域活動に参加するべきである
- ・地元の職員にしてほしい



Cグループ ボランティア活動が活発なまちにする

○有償化に向けてのルールづくり

- ・気軽に頼めるようにルールを作る
- ・本当に必要な手助けは無償とする
- ・ちょっと手伝ってほしいときは有償とする

○メンバーを増やすための仕組み

- ・様々な人を集めるための仕組みをしっかりとつくる
- ・いろんなことができる人をメンバーに集めたい
- ・定年で仕事を辞めた方にも能力を活かして新しいやりがいを与える

○実施主体について

- ・実施主体が課題である
- ・ボランティアの受け皿でしっかりマネジメントをする
- ・今よりも仕事が増えると大変という気持ちがある
- ・まずは今ある「ボランティアあい」からスタートする

○呼びかけ

- ・理解してもらうためにも「一緒にやりましょう」と常に言い続けること
- ・みんなが何らかのボランティアをしてみることに

○理解してもらうためには

- ・ボランティアという言葉を変えたほうが良い
- ・誰かがやらないといけないということをやっている
- ・ボランティアについてしっかり知ってもらう
- ・経験者がやって良かったということを伝えていく

○予算について

- ・ボランティアに対する予算がない

○仲間の繋がりについて

- ・ボランティア同士の交流会、井戸端会議
- ・楽しく活動できるようにする
- ・自分自身も楽しむこと

